

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和6年11月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

10日に山体の北を震源とする火山性地震が一時的に増加しました。

その他の火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では、2017年以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移し、女岳^{めだけ}付近では熱活動が継続していますが、火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～3、図4-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。同観測点の赤外監視カメラによる観測では、女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

8日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、女岳付近に特段の異常は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図4-②～⑤、図5、図6）

今期間、山体の北が震源と推定される火山性地震が多い状態で経過しました。10日には山体の北で火山性地震が一時的に増加し、日回数が160回となりました。

山頂付近では2017年9月以降、そのうち女岳付近では2018年9月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態が継続しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

秋田駒ヶ岳では、2017年9月以降は山頂付近で火山性地震の発生頻度がやや高く、低周波地震も時折発生するなどしています。今期間、山体の北で火山性地震が一時的に増加しましたが、山頂付近の火山性地震の発生頻度に特段の変化は認められていません。また、女岳付近では2015年頃まで地熱域の拡大がみられましたが、その後大きな変化は認められていません。これらのことから、噴火の兆候は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和6年12月分）は令和7年1月14日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の状況（11月6日）と地表面温度分布の状況（11月16日）
・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）の可視及び赤外映像です。

女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。
女岳の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

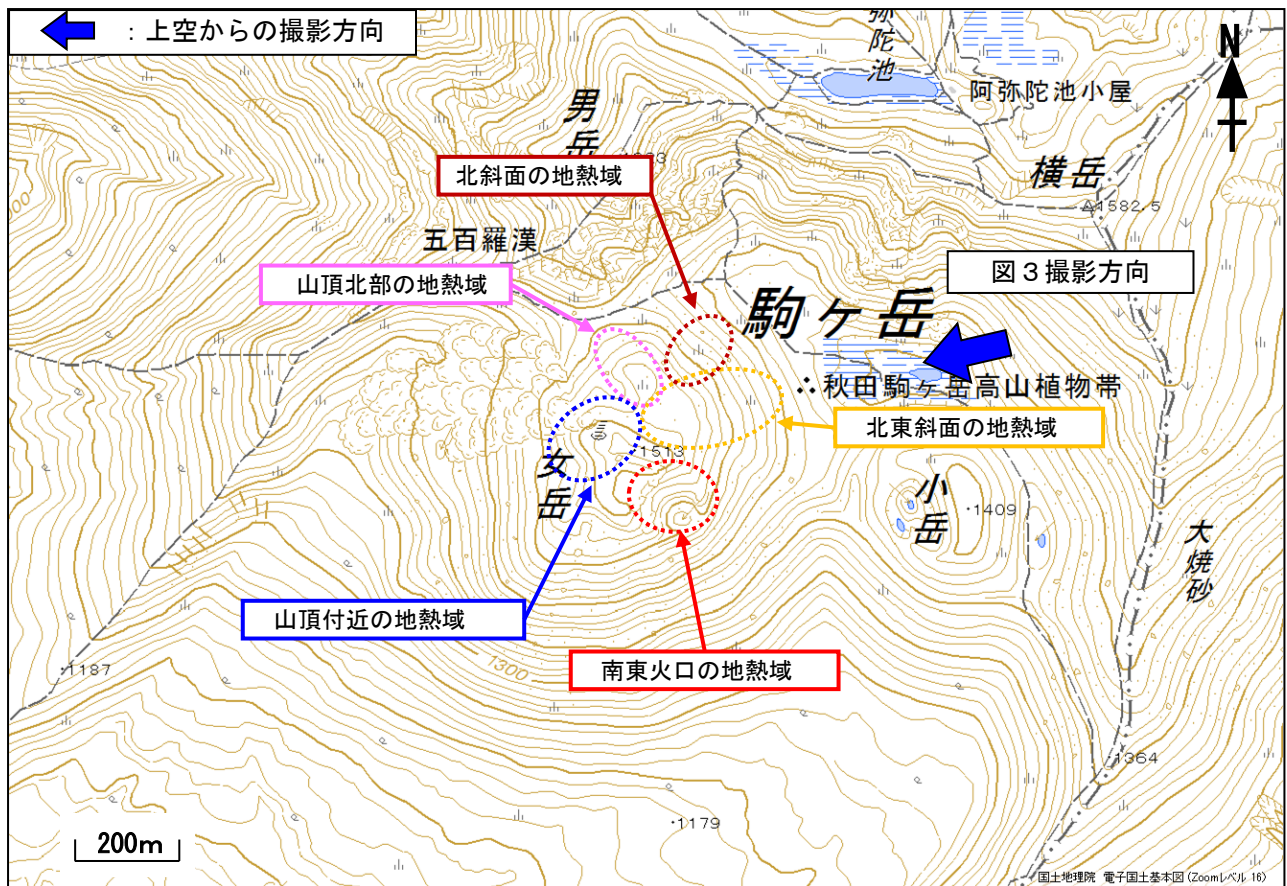


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び上空からの写真の撮影方向

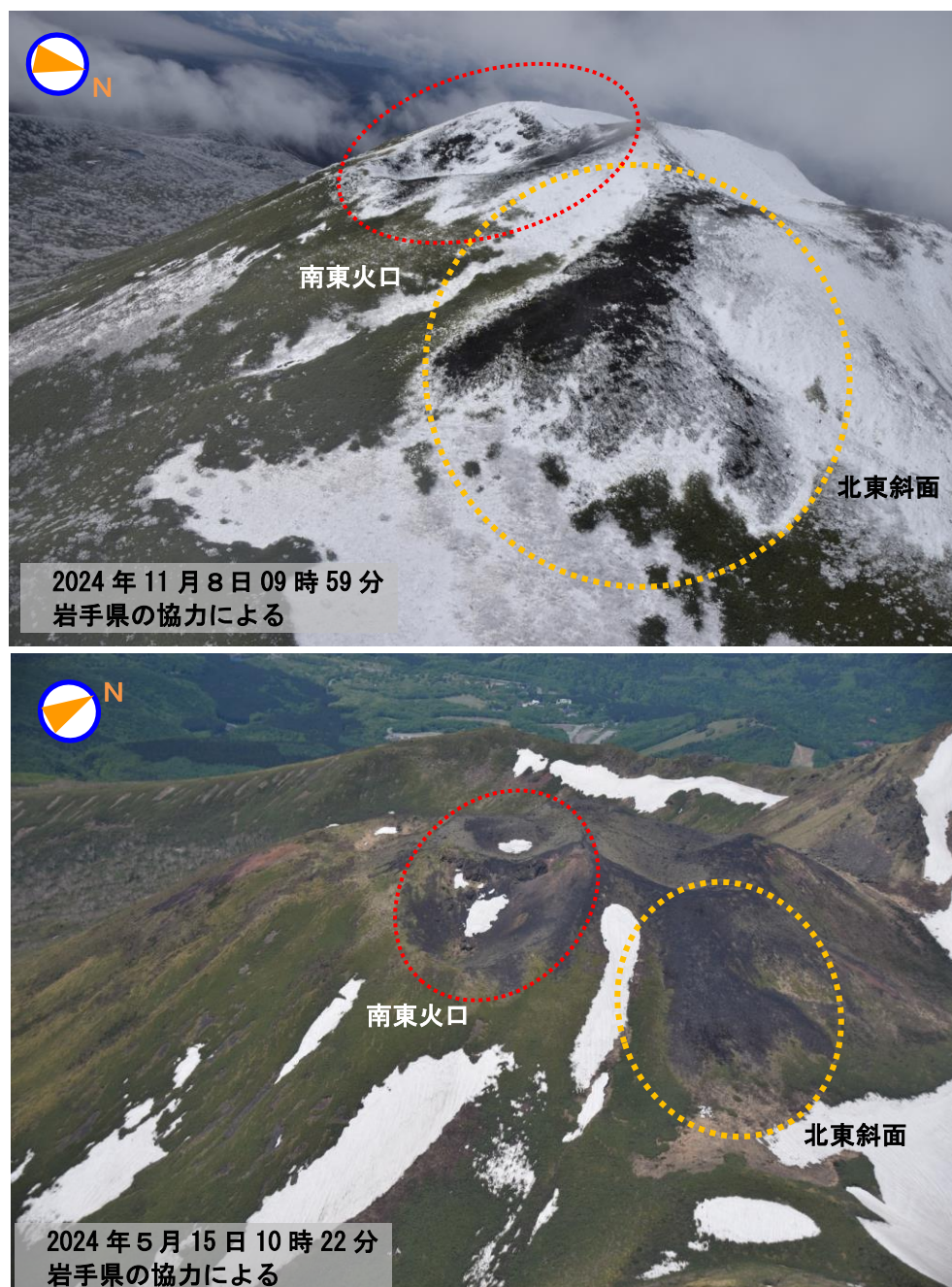


図3 秋田駒ヶ岳 上空からの南東火口及び北東斜面の状況

・図中の破線の色は、図2の線の色に対応します。

南東火口、北東斜面の状況に特段の異常は認められませんでした。

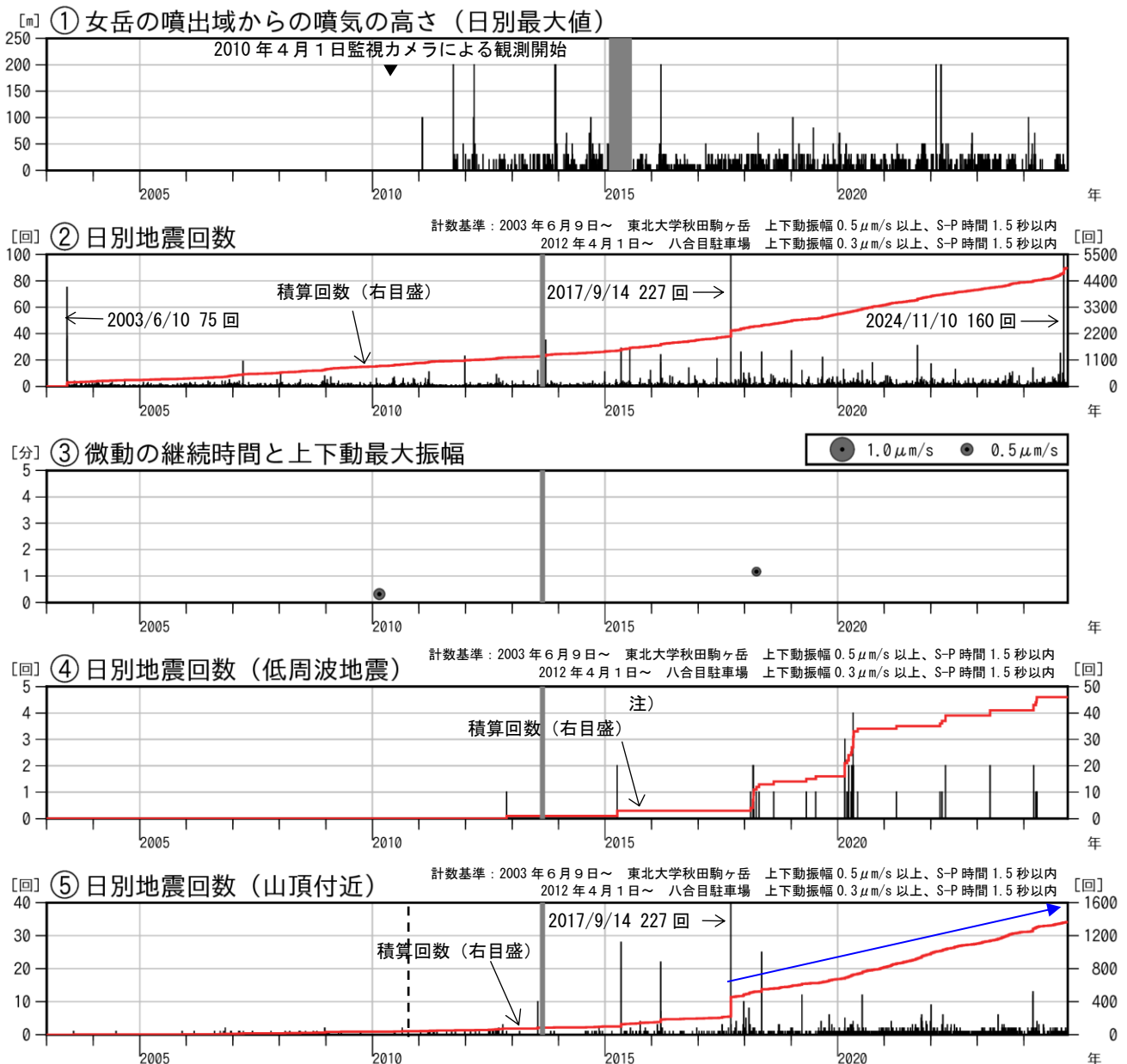


図4 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2024年11月）

注）姿見ノ池西観測点の運用開始（2016年12月1日）以降、検知力向上により低周波地震を判別しやすくなっていると考えられます。

- ・⑤は「山頂付近」で発生したと推定される地震の回数を示しています（「山頂付近」は「女岳付近」の回数も含みます）。2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂近傍に観測点が配置されたことにより、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・図中灰色部分は欠測を表しています。

今期間、山体の北が震源と推定される火山性地震が多い状態で経過しました。10日には山体の北で火山性地震が一時的に増加し、日回数が160回となりました。山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（⑤青矢印）。

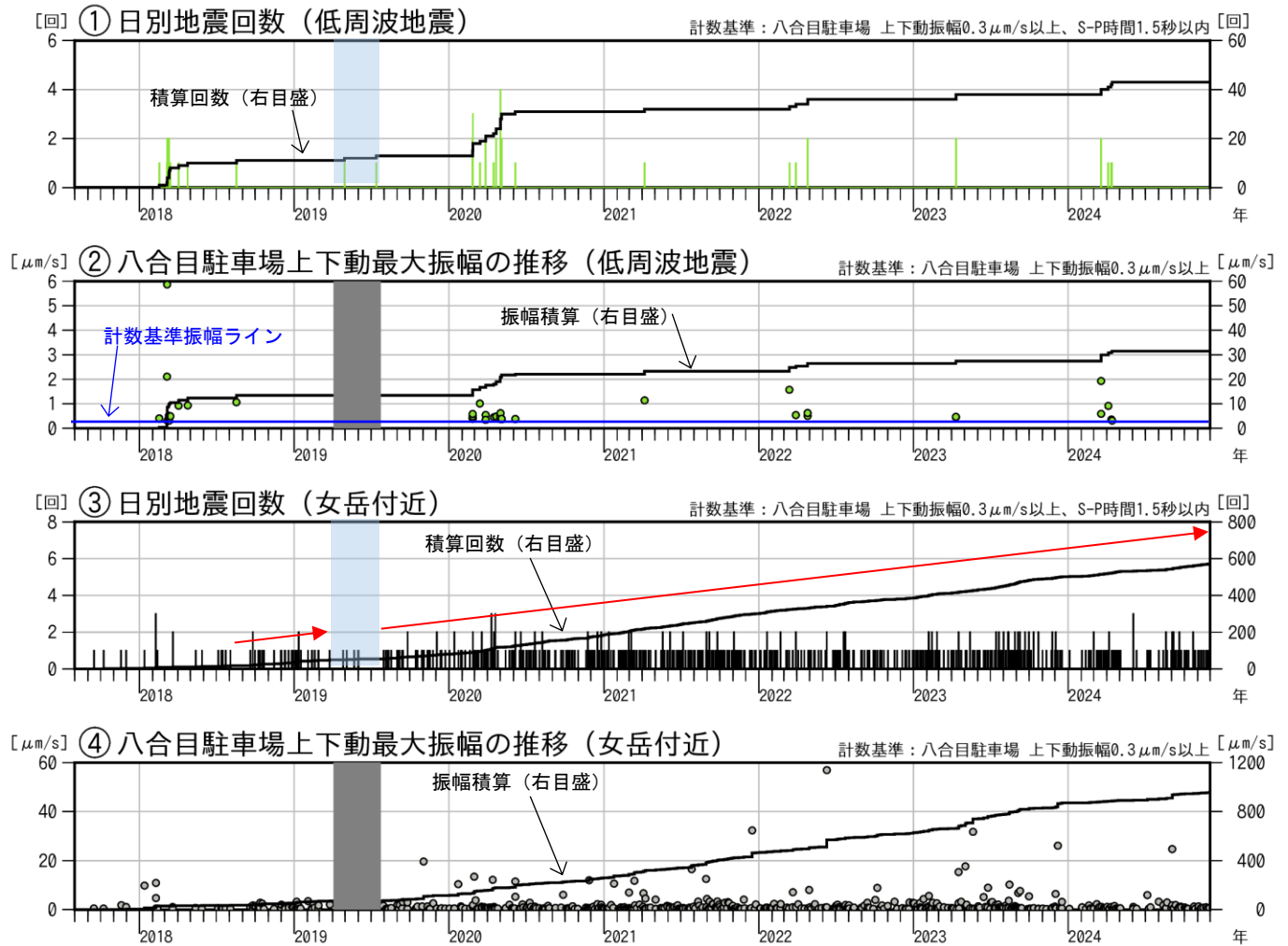


図5 秋田駒ヶ岳 低周波地震及び女岳付近の日別回数と最大振幅（2017年8月～2024年11月）

・灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示しており、それにより地震の検知力が低下している期間を青色で示しています。

2018年9月頃から女岳付近の地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（③赤矢印）。

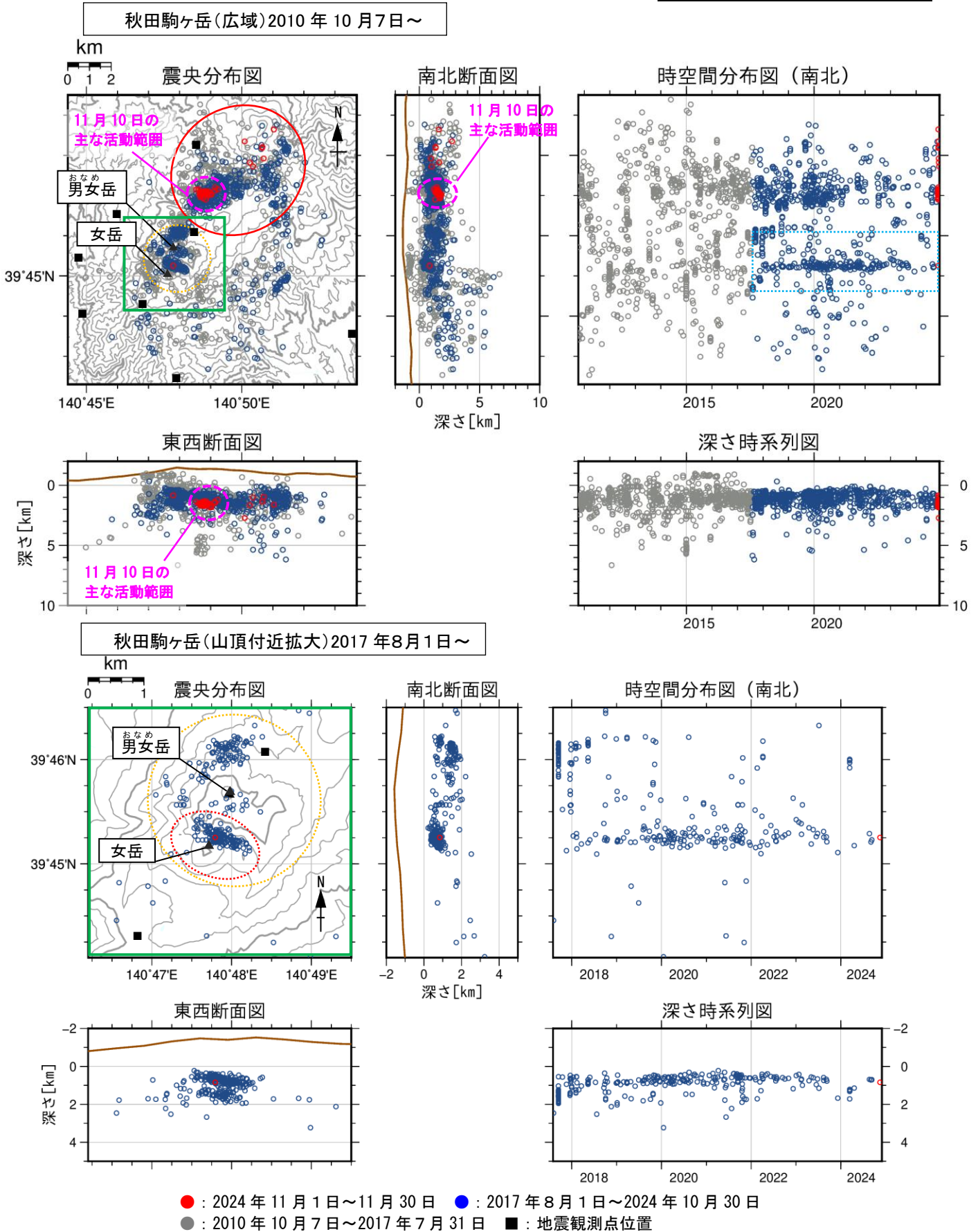


図6 秋田駒ヶ岳 地震活動（2010年10月7日～2024年11月）

- ・ 赤線の領域は、「山体の北」としたおおよその領域を示しています。
- ・ 橙破線及び赤破線の領域は、それぞれ「山頂付近」及び「女岳付近」としたおおよその領域を示しています。
- ・ 2017年8月1日から姿見ノ池西観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています（水色破線）。

山体の北が震源と推定される火山性地震が多い状態で経過しました。10日に発生した火山性地震の震源は男女岳の北約3kmの深さ約1kmと推定されます。また、女岳付近が震源と推定される火山性地震は、今期間9回発生しました。 - 6 -

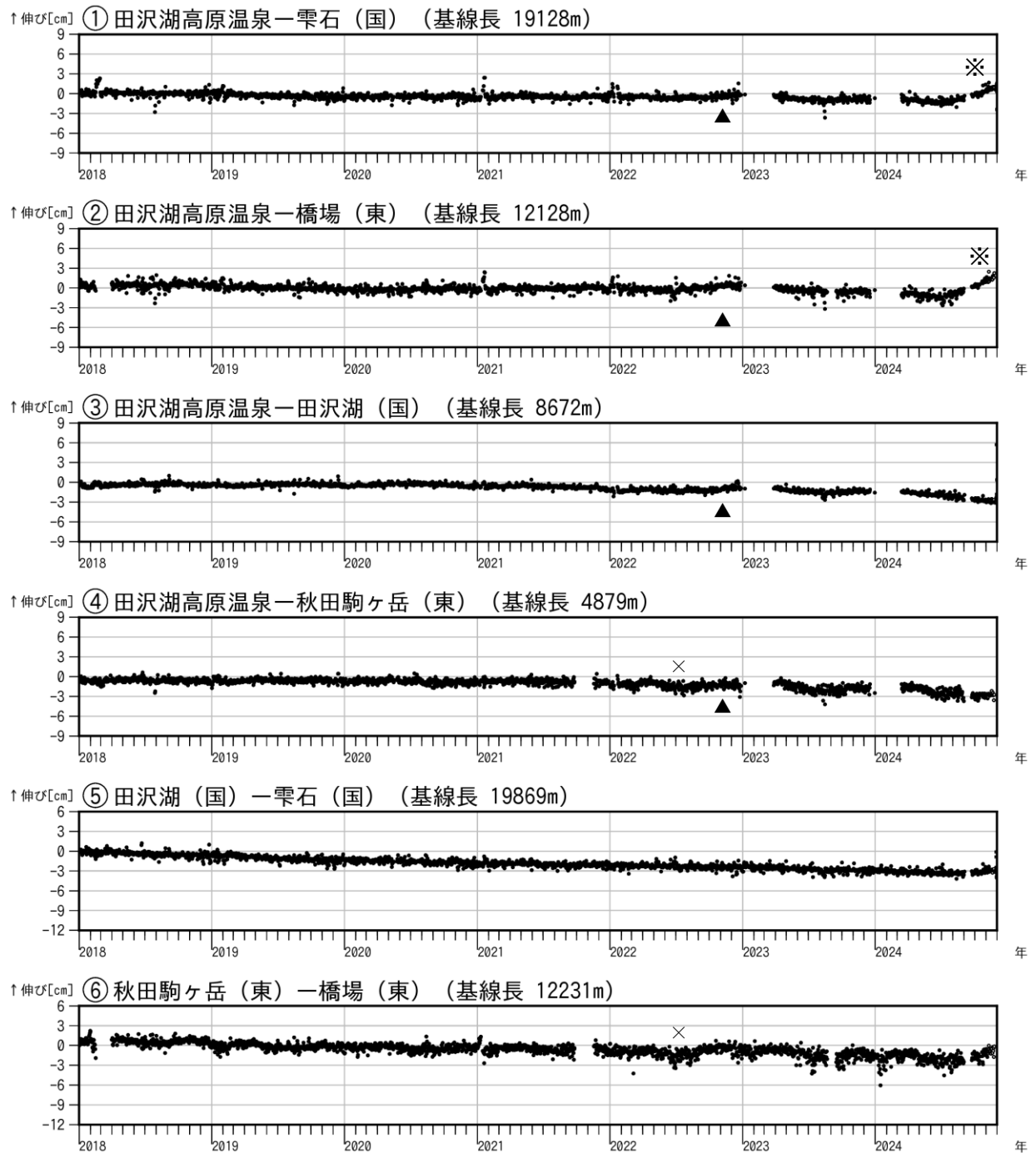


図7 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2024年11月）

- ・①～⑥は図9のGNSS基線①～⑥に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
- ・システム更新に伴う調整中のため、一部の過去データにステップ状の変化がみられています。
- ▲：田沢湖高原温泉観測点の機器更新を行いました。
- ×：秋田駒ヶ岳（東）観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

秋田駒ヶ岳の火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

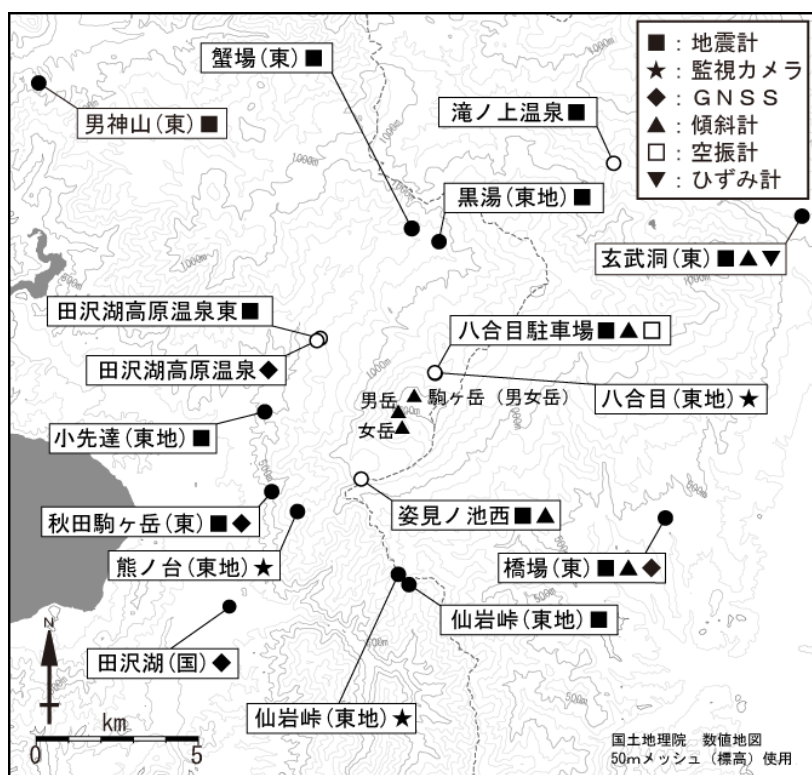


図8 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (国) : 国土地理院

(東) : 東北大学

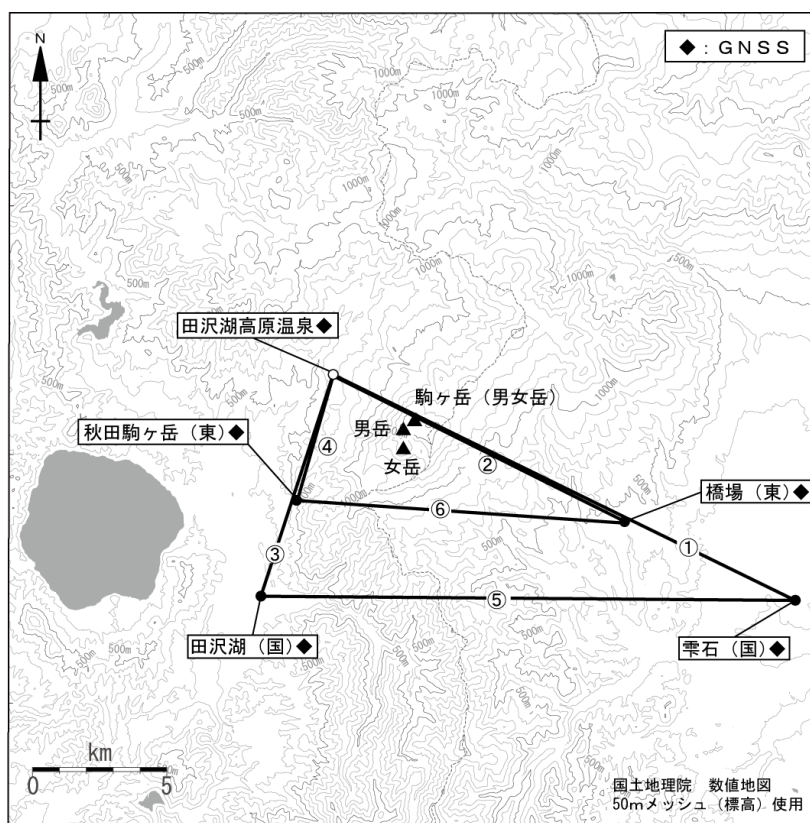


図9 秋田駒ヶ岳 GNSS観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学